



# 平安

あったかハートで Hey!安心!!

10月号

## 70周年大運動会に向けて

学校長 中村 浩子

ここ数年、コロナウイルス感染症対策のため、運動会についても、その年、その年でできることを探りながら行ってきました。しかし、今後は『WITH コロナ』の時代になっていくことから、今の平安小学校の子どもたちのためにどんな運動会にするべきか、何を大事にしたいか、今一度職員で考え直しました。そこで話し合ったことは、これからの運動会では、

- ①運動する機会が減ってしまったので、運動する楽しさを味わってほしい。
- ②大人数で活動ができない状況が続いたので、同学年や他学年と協力することの大切さを知ってほしい。
- ③ここ数年できない行事が多い中で、一人ひとりが少しでもできることに取り組み、学校行事を作り上げていくという意識をもってほしい。

ということです。そして、午前中開催にするため、どうしてもプログラムの精選も必要になってまいりますので、今年度は各学年演技と競技、4～6年生のリレーを実施することにしました。保護者の皆様や地域の方等、たくさんの方に、多くのプログラムを観戦して応援していただきたいと思いますが、子どもたちの感染リスクを低くすることと子ども同士が運動を楽しみながら学び合う機会にするものにしたいという趣旨をご理解いただきたいと思います。

さて、子どもたちが健全に成長していくためには「自己肯定感」をもつことがとても大切だと言われています。ところが、日本人は謙遜する特性があるとしても、世界の子どもと比べると、この「自己肯定感」が低くなっていると報告されています。自己肯定感は、どうやって高めていくのでしょうか。最近の学校では、こんなことがありました。

70周年記念式典に向けてさまざま準備をする中で、当日お配りするリーフレットに子どもたちが歌う校歌をQRコードで読めるようにしようと計画中です。子どもたちの声を録音するということが、通常は朝の会で校歌の歌声が各クラスから聴こえてくるのは4月ですが、今年度は夏休み明けにどこのクラスからも校歌が聴こえてきました。今は、すぐに録音して聴くことができますので、クラスによっては自分たちの歌声を聴いて練習に取り組んだり、「もっと声がでるはずだ」という担任の声掛けから何度も練習を繰り返したりしたところ、本番の録音を聴き、「やればできる」、「確かに大きな声が出せた」と気付いたようでした。このような小さな「自分はできる」という積み重ねをし、周囲の大人がその頑張ったことを認めてあげることによって、自己肯定感を高めていけるのではないのでしょうか。

学校でも運動会に向けて、それぞれの仕事に取り組む様子や応援する姿など、子どものさまざまな良い姿を見つけ、認めていきたいと思っています。ご家庭でも、子どもたちの「自己肯定感」が高まる声掛けをお願いいたします。